

上組小学校

学校だより

# かたつむり

平成29年12月12日(火)

第7号

文責 高橋 慎一郎

## おいしかった焼き芋

- 5月25日(木)に学校の「芋畑」に植えた「芋」を10月25日(水)に収穫しました。芋の苗植えから収穫や草払い等に至る一連の作業には、「甲斐 郁生」さん、環境整備部長「森下 和輝」さんやその他の保護者の方々の協力をいただきました。学校行事の度に保護者や地域の方々に支えていただいていることに感謝するばかりです。10月25日の収穫時には、「日融工房」さんからも10名以上の方が参加してくださり、児童と交流ができ、あちこちで「笑顔」が見られ、暖かい気持ちにさせていただきありがとうございました。

さて、収穫時には、「一輪車=約4台分」の芋が収穫でき、豊作となりました。

収穫した芋を1ヶ月と10日あまり寝かせた後、12月7日(木)に「収穫祭」にて「焼き芋」にしました。午前9時から火おこしをして、児童は、おいしい焼き芋になぁーれと願いながら作業を行いました。この日は、芋づくりに関わっていただいた「森下 和輝」さん、「戸高 勝則」さん、「日融工房」さんにも出席いただき、賑やかな「収穫祭」となりました。準備した130個の芋も比較的短時間でおいしい「焼き芋」へと変身し、子ども達、職員、保護者の方々、日融工房さん、まさしくおいしいものには「ことばはいりません」のとおりみんな無口で焼き芋をほおべていました。児童には、たくさんの方々の支えがあるということへの「感謝」をいつまでも忘れないでほしいです。



## お疲れ様もいいけれど・

- 昨年の10月3日(月)の宮日新聞に「お疲れ様」を考える客論が出ていました。私が理解した範囲で概要をお伝えしようと思います。昨年、放送されていた「朝の連続ドラマ」を観ていて、昭和の時代に会社でかわされる「あいさつ」のことばに美しさを感じる。例えば、出かけるときの「行ってまいります」と「行ってらっしゃい」のことば。「ただいまもどりました」と「おかえりなさい」のことばなど。

それに対して、時代における職場でのあいさつのことばを思い浮かべてみると、大半が「お疲れ様」ということばに、言い換えられてしまっているように感じる。

もともとあいさつには、多様な彩りがあったが、失われつつある。何でも通用するようなことばは便利ではあるが、表現の彩りや多様性が奪われてしまっていくような気がする。

## 豊かさの鍵は、ことばの豊かさ

- 伝えたかったことは、どんなことなのでしょう。文章の一部を載せてみます。私は、読み終わった後、生活に潤いを与える大切なものは何かに気付かされる思いがしました。

相手によって、少しずつ使い分けていたはずの様々なあいさつのことばが、すべて一色に塗られていくのは、先人達が永い時間をかけて細かく、丁寧に色分けしてきたことばの、そして人と人との、人と自然とのつながりの豊かさを失っていくようで、寂しいのです。(略)

私たちの暮らしを本当に豊にしてくれるのは、もしかしたら、「お金ではなく」そんな「ことば」の豊かさなのかもしれない。

- 私自身も朝のあいさつ等を除いて、職員に対して「お疲れ様です。お疲れ様でした。」を使っていることが多いことに気づかされ、ハッとしました。あいさつのことばについて、その場の状況や気持ち等の彩りを大切にしたことばかけの「あいさつ」の大切さに気づかされたように思います。

